

# 月刊 En-ichi 圓一

5  
no.264

## 魂の教育を実践する

インタビュー

### 家庭の中に「聖・美・愛」の価値を実現しよう

社団法人スコレ家庭教育振興協会会長 永池榮吉



日本の家庭を守る教育情報誌

今月の  
焦点

(かつて日本では)子供たちは日々親が見せていた自己犠牲の愛への感動を心の糧にして成長したわけです。自己犠牲は人間の最も美しい姿ですね。…私は、豊かな時代においても、家庭の中に「聖なる空間」を持つべきだと思います。それは例えば、「共感の愛」です。

家庭の中に「聖・美・愛」の価値を実現しよう 永池榮吉…5

ゆがんだ「仲間文化」(ピア・カルチャー) ごと変えていこうという観点でいじめ問題に対応しようとしている…学校をあげての人格教育プログラム実施と地域社会への奉仕などからなる十の方策とプロジェクトだ。

いじめ撲滅に取り組む人格教育プロジェクト-米国…11

思春期というのは今までの自分をいったん解体し、再編していく時です。…その中で、連続性が失われるという体験から、実は大切な問いが生まれていることが分かります。かなり深く「自分とは何だろうか」と考えさせられます。

「中一ギャップ」をどう防ぐか 庄井良信…15

3	巻頭言 魂への配慮としての哲学を	長崎大学名誉教授 篠原駿一郎
4	教育再生への課題と展望 「新しい家庭像」を提案する 家庭の中に「聖・美・愛」の価値を実現しよう	(社)スコーレ家庭教育振興協会会長 永池榮吉
10	ワールドアフェアーズ いじめ撲滅に取り組む人格教育プロジェクト—米国	
12	情報ファイル 小学校教員の38.5%が50代以上 日本の高校生「留学したい」は4カ国中最低	
14	私の教育実践 「中一ギャップ」をどう防ぐか—臨床教育学の視点から	北海道教育大学教授 庄井良信
17	子育ては絵本で大丈夫 「しあわせなぶた」ほんとうの幸せってなんだろう?	劇団天童／天童芸術学校代表 浜島代志子
18	病を克服した偉人たち 滝沢馬琴 失明しても書き続けた大作『八犬伝』	
20	教育情報 千葉で人格教育協議会結成大会 ほか	
22	Book Review	
24	歴史と伝統の探訪 沖縄学の父、日琉同祖論唱える／沖縄	



長崎大学名誉教授  
篠原駿一郎

## 巻 頭 言



「魂」とは何でしょうか。今の時代、私たちの多くは魂などというものの存在を信じてはいません。私たちが信じているのは、この身体とそれに宿る精神のみです。したがって、この世の命が尽きれば全ては終わりです。これは日本も含めて産業化された国の人々の大きなイデオロギー、つまりは証明も反証もできないような思い込みです。

このような社会が依って立つ理念は、個人主義、平等主義、自由主義、資本主義、といったものでしょうか。そこには、現世における私たちの欲望を精一杯満たすことこそ「生きる目的」あるいは「生きる意味」である、ということが含意されているようです。これらの理念は、明治以後に私たちが西欧から学び、その後、国家主義的政治体制による抑圧などの挫折がありましたが、先の敗戦以降は、再びこれらの理念に基づく市民社会を理想としてきたし、これからもそうである、と言えるでしょう。

しかしながら、この現世主義的な理念には、私たちの存在を超えた存在者、大自然、といったものへの崇敬の視点が欠けているようです。そこでもし、私たち自身の存在をこの超越的存在者との関係で考えるならば、やはり、私たちの存在の核としての魂のようなものを想定すべきでしょう。

## 魂への配慮としての哲学を

単に身体と精神の合体した現世的な人間ではなく、そこに魂を有するものとして人間存在を考えれば、私たちの世界観や人間観、そして人生観も大きく変わるでしょう。そして魂そのものを鍛え陶冶すること、それが魂へ配慮するということです。プラトンによって描かれたソクラテスは「人は身体や金銭のことよりは、魂ができるだけ優れたものになるように配慮すべきである」という趣旨のことを語っています。このことは、今なお、哲学の伝統として受け継がれている重要なテーマなのです。

大いなる大自然や超越者との関係にある魂は、永遠の相のもとにある存在です。それは単なる欲望充足のための主体とは違います。私達の人生の目標を定める視座は、欲望充足を超えたところに置かれなければなりません。それは、人生を現世だけに限定した利那的価値観で考えることではなく、社会を単なる欲望調節のための機能として考えることではなく、地球を単なる人間だけのもの、あるいは私たちの世代だけのもの、として考えないという視座なのです。

現代は、一部には哲学復活の兆しも見えますし、それは現代社会の不安を反映しているのかもしれませんが、まだまだそれは実を伴うものにはなっておりません。「魂」という語を復活させ、その魂への最大限の配慮という視座を私たちの心にしっかりと据える、そのときにこそ、本当に哲学が復活したと言えるのではないのでしょうか。

「新しい家庭像」を提案する―新・生命主義概論

# 家庭の中に「聖・美・愛」の 価値を実現しよう

日本型個人主義の到達点が「無縁社会」ではないか。家庭の中に聖なるもの、美なるもの、愛なるものを実現して、家庭を再生させよう。

## 「日本型個人主義」の到達点

――「新しい家庭像」について提案しておられますが、それについてお聞かせ下さい。

日本の家庭は豊かになっていく時代の流れの中で、もろくなってしまうと言われる。その大きな要因は「日本型個人主義」にあると私は考えています。その特質は次のようなものです。

一つは、日本型個人主義は「神を持たない」ということです。欧米の個人主義が一神教のGod(神)を持っているのに対して、日本型

個人主義は人間としての尊厳性を根源的に支える何ものも持っていません。いわば虚無主義です。戦後六十年を経て、その欠点もたらす現象が起きているわけです。家庭のあり方、子育てのあり方の基礎となるものが何もない。これが現状です。

二つめは、家庭・家族の連帯を育むシステムを持たないということです。日本では敗戦後、教育勅語を廃止しましたが、それに代わる何らかの道徳的指針を定めることができませんでした。

欧米の一神教の倫理観に代わるものが、東アジアにおいては伝統的な家族道徳でした。にも関わら

## 永池榮吉

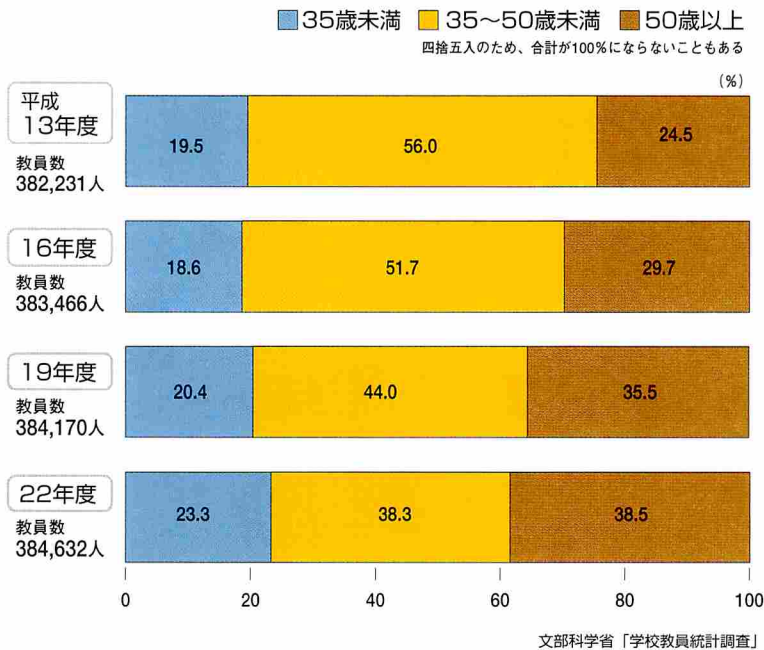
ながいけ・えいきち

社団法人  
スコール家庭教育振興協会会長

1939年北海道生まれ。80年7月「国際スコール協会」を設立、99年8月「社団法人スコール家庭教育振興協会」会長に就任。2005年、教育学博士。文部科学省主催「全国生涯学習フェスティバル」に第1回から講師として参加、NHKテレビ「視点・論点」に出演するなど、多方面で活躍中。(公財)日本ユニセフ協会評議員・日本家庭教育学会顧問・国語問題協議会評議員など。著書に「こころの添木」「人生の難問を解決する魔法の言葉」「生き方の基本」「生きる強さを育てる家庭の底力」ほか多数。



## 教員の年齢構成の推移（公立小学校）



# 学校教員統計調査

# 小学校教員の約4割が50代以上 中堅層の減少で教育力低下の懸念

教員の高齢化が一段と進み、年齢構成の急激な変化が教育現場に影響を与えている。文部科学省の「学校教員統計調査」によると、平成二十二年度の全国の公立学校教員の平均年齢は小学校四四・四歳、中学校四四・二歳、高校四五・八歳。前回（平成十九年度）をやや下回った小学校を除くと、中学・高校で過去最高となった。また女性教員の割合は小学校六一・九%、中学校が四一・二%ではほぼ横ばい。高校では二八・六%と、女性の割合が上昇傾向にある。

年齢構成の歪みは教育現場にさまざまな影響を与えている。若手を指導する中堅層が薄くなることで、教育力が低下するのではないかと懸念されている。またITを駆使した授業、英語授業や体育授業への対応など、教員層の高齢化がもたらす課題も多い。

今後十年にわたって、団塊世代が大量に退職するため、すべての学校種で採用数を増やしている。一方、離職者の状況を見ると、小学校では離職者の四割弱は定年以外の理由で離職しており、精神疾患など病気理由による離職が急増している。教員が置かれている学校現場の厳しさがうかがえる。

教員の質を高めようと、最近は大大学院卒者の採用や民間からの採用も徐々に増えつつある。教員の学歴をみると、大大学院卒者の割合がすべての学校種で上昇している。教職大学院が増えたことが大きい。

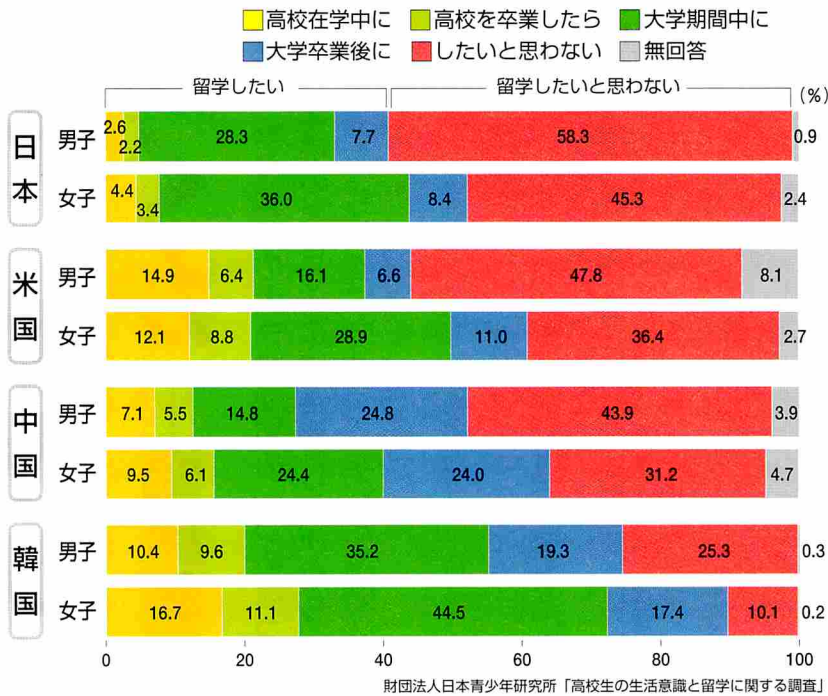
もつとも高齢化が進んでいる小学校では中堅層（三十五歳から五十歳未満）が五六・〇%（平成十三年度）から三八・三%（同二十二年度）に激減。代わって五十代以上が二四・五%から三八・五%に増えた。

もつとも高齢化が進んでいる小学校では中堅層（三十五歳から五十歳未満）が五六・〇%（平成十三年度）から三八・三%（同二十二年度）に激減。代わって五十代以上が二四・五%から三八・五%に増えた。

高校生の生活意識

「留学したい」は4力国中最低  
したくない理由「自国が暮らしやすい」「言葉の壁」

「可能なら外国へ留学したいと思う」



日本の高校生の中で「留学したい」と考えているのは半数以下で、米国、中国、韓国に比べて低いことが、財団法人日本青少年研究所の調査で明らかになった。逆に「留学したくない」は最も高かった。高校在学中から大学卒業後まで留学時期は別にしても、「可能なら留学したい」という日本の高校生は男子四三・四％、女子五二・二％。逆に「留学したいと思わない」は、男子五八・三％、女子四五・三％で、男女とも日本が最も高い。留学したい理由を見ると、「語学力を身につけたい」「自分自身の視野を広げたいから」は約八割と高い。逆に「よりよい教育環境を求めたいから」「帰国後の就職が有利になるから」などは一割台で、他国との差が大きく、同研究所の報告書は「日本高校生の現状満足

意識の現れであろう」と分析している。

一方、留学したくない理由では、「自分の国のほうが暮らしやすいから」「言葉の壁があるから」「外国で一人で生活する自信がないから」が五割前後。さらに「面倒だから」も三八・五％で四力国の中で最も高かった。

また、留学で最も重要な目的については、日本の高校生は「語学」が七〇・一％で、他国（二〜四割）と比較しても語学指向が強い。一方、「学位取得」は中国四三・三％、韓国二二・一％に対して、日本は三・七％だった。

この他、自己肯定感、自尊感情についての回答を見ると、日本の高校生は「物事に積極的」（六二・〇％）、「自分は価値ある人間」（三九・七％）、「自分はダメな人間」（八三・六％）など、自己肯定感が総じて低く、他国と大きな差があった。このところ日本の子供たちの自己肯定感が低いと言われているが、それを裏付けた形だ。



第3種郵便物認可  
2012年5月10日発行  
毎月10日発行・通巻264号

# 沖縄学の父、日琉同祖論唱える／沖縄

歴史と  
伝統の訪  
探



(左上より時計回りに)伊波普猷  
([「沖縄学」の父伊波普猷]清水書  
院)、顕彰碑、浦添城址にある墓

「彼ほど沖縄を識った人はいない  
彼ほど沖縄を愛した人はいない  
彼ほど沖縄を憂えた人はいない  
彼は識ったが為に愛し愛したた  
めに憂えた 彼は学者であり愛郷  
者であり予言者でもあった」  
顕彰碑に刻まれたこの言葉が「沖  
縄学の父」と呼ばれる伊波普猷を  
物語っている。

廃藩置県により沖縄県が設置さ  
れる三年前、一八七六年、伊波は  
琉球藩那覇西村（現那覇市西）に  
出生。沖縄県尋常中学校（現首里  
高校）に入学するも校長排斥運動  
に加担したとして退学処分となる。  
後、三高を経て東京帝国大学入  
学、言語学を専攻。学友に金田一  
京助らがいる。卒業後帰郷、県立  
図書館館長を務める傍ら、言語学、  
民俗学、歴史学、宗教学等広範な  
資料の収集・研究を通して沖縄独  
自の歴史・文化を解明していく。

一方、沖縄組合教会を設立し、聖  
書やエスペラント講習会での指導  
にも当たる。日琉同祖論者（日本  
人と琉球人は起源としては民族的  
に同一であるとする説）としても  
知られるが、近年の遺伝子学で解  
明された沖縄人と日本人が人種的  
に同祖であることを言語や民俗の  
研究から百年前に証明してみせた。

研究成果を基に、政府による行政  
差別を毅然と批判しつつ、出自に  
悩む沖縄県民に日本人としての自  
信と誇りを持ち生きよと啓蒙活動  
に心血を注いだ。その後、上京し、  
民俗学者の柳田國男や折口信夫ら  
と親交を深め、多くの優れた論文・  
著作を残す。  
一九四五年の沖縄玉砕・終戦に  
よる絶望から再起、沖縄の救民運  
動に奔走するも、四七年、沖縄の  
将来を憂いつつ、東京で波瀾の生  
涯を閉じた。享年七十一歳。目

2012  
5  
no.264

En-ichi

●発行所  
NCU-NEWS  
(東西南北統一運動国民連合)

〒160-0022  
東京都新宿区新宿5-13-2  
成約ビル2F  
TEL.03(5362)0631  
FAX.03(3354)5017  
E-mail news@en-ichi.org  
URL http://www.en-ichi.org

●発行人 渡辺久義  
京都大学名誉教授

定価 400円  
[1年間5000円(送料込み)]  
郵便振替番号  
00160-3-667291

●本誌に対するご意見、ご感想  
をお寄せください。  
●定期購読のお申し込みは、電  
話またはEメールでどうぞ。